

# 点突然変異検出システム利用手引き

(ver. 4, Apr. 2015)

筑波大学遺伝子実験センターでは、文部科学省最先端研究基盤事業「植物科学最先端研究拠点ネットワーク」の研究支援の1つとして、点突然変異検出システムを用いた解析を提供いたします。本研究支援は、共同研究として行わせていただきます。以下の注意点をよくお読みいただいた上で、お問い合わせください。

## 使用機器等

LI-COR 社製 4300 DNA Analyzer                    一台  
および 4300 DNA Analyzer ソフトウェア        一式

## 利用の流れ

- ① 事前打ち合わせ（申請書提出前に、下記連絡先までメールでご連絡ください）
- ② 申請書の提出、審査
- ③ 採択の連絡、日程調整
- ④ 利用者が来所して、点突然変異検出実験を行う
- ⑤ 目的点突然変異を有する変異系統の同定を利用者機関において行う

## 利用する上での注意点

本点突然変異検出システムの利用は、筑波大学遺伝子実験センター・江面浩グループで開発したトマトモデル系統マイクロトムの変異誘発集団からの TILLING 法による目的遺伝子変異系統スクリーニングに限らせていただきます。変異誘発集団の規模や変異検出率については、論文 (Okabe Y. et al., *Plant Cell Physiol.* 2011) を参照してください。当スクリーニング用 DNA プール拡充の最新情報については、下記連絡先（岡部）に確認してください。

## 費用負担

利用状況に応じ課金します。詳細は事前打ち合わせの際にご案内します。利用者の旅費・宿泊費等（学内宿泊施設あり）は原則として利用者をご負担ください。

## Authorship

成果発表の際には、事前にご相談ください。また、Acknowledgements 等に以下の内容を記載されるようお願い致します。

（例）This research was supported by Japan Advanced Plant Science Network.

## 連絡先

okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp      岡部 佳弘  
（筑波大学 遺伝子実験センター 助教）